

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:2023年3月8日

事業所名 こどもプラス 宇都宮教室

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			広い教室に引越してから衛生面等、より快適に提供しやすいよう環境づくりを心掛けている。個々の特性に寄り添った支援について理解し、それぞれ協力合っている。職員が常に見守れるよう配置ができています。	
	2	職員の配置数は適切である	8			利用人数に応じて職員配置・シフトを細かく区切っている。職員の体調不良等、緊急時の対応。見守りに適した配置がされている。職員同士、不足になることが無いよう声を掛け合っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6		2	バリアフリーが必要な場合でも対応できる設備と思われる。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		1	スタッフ会議等、支援方法や業務(イベント)について報告・相談等会話されている。職員それぞれの目標設定や振り返りを公表する。定期的にパートも含めて会議を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			送迎時等、保護者対応(要望)あった場合の連絡・報告を常に行っている。アンケート結果の掲示・回覧する。結果について話し合う。アンケートを実施し、職員内で協議し改善に向けての話し合いを行う。公表告知などInstagramやLINEを活用している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		1	ホームページに工夫している。教室ごとに結果を公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5		3	外部評価の把握。評価結果を理解しどうしたらいいのか改善点について話し合い公表する。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8			運動療育研修等が業務時間内に設定されている。動画による研修も業務時間内に効率化できるとよい。定期的に研修会を行い、普段の活動へ繋げている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8			モニタリング等その都度掲示回覧し、スタッフ会議等で情報共有している。保護者のニーズや課題もまとめて回覧できるとよい。管理者がアセスメントを行い、それを元に職員に意見を求め計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		1	適応行動と状況把握について、記録を通して会話している。アセスメントツールの把握と理解を進める。教室の壁に掲示をしたり、声掛けを実施している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8			スタッフ会議で活動内容・イベント等イベント担当を決めてチーム立案をしている。当日の利用児童の特性を話合っ	

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8			スタッフ会議でアイデアを伺うなどしている。 活動内容・難易度・担当・チーム編成等、変化をつけて行うようにしている。 日替わりで内容を変える工夫をしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8			平日は時間内に効率的に行える活動内容にしている。 長期休暇・休日には季節に添った活動内容を心掛けている。 長期休暇には昼食注文など家庭での労働負担を考えた支援を提供している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		1	共有しやすいようボード等、各所に記入し掲示している。 利用人数や個々の特性に併せて変更等がある場合もすぐに書き換え対応している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		3	日報記録者がまとめて行っている。 担当外職員は送迎時まで気づいたことがあれば報告し一日の振り返りを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		1	記録者が疑問点がある場合は明確に記録できるよう他職員に聞き、それ以外の職員はその日の出来事や気づいたことがある場合には必ず記録者に報告する。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8				子供たちへの療育活動の他に、保護者対応なども含めて、コミュニケーションでの支援も考え行っている。

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8			送迎表など、その都度確認して疑問点があれば聞くようにしている。トラブル発生時は前例などを参考にする。落ち着いて行動し、速やかに連絡する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4		4	コンプライアンスの問題に気を付けて送迎時などに園に伺っている。保育所や事業所などへの連絡が家庭発信であるため、話し合う機会
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		2	事例がないので、よくわからないが情報提供はするようにしている。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		3	専門機関との連携を図るためにも助言や研修は受けるようにしている。必要な情報を得る手段として考えている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	3	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1	4	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8			送迎やお迎え時に様子を伝えていく。家庭での対応方法がある場合は伺うようにしている。どこにいても安心感が得られるよう一貫性を意識した支援の提供。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5		3	保護者に共感しながら、親子が一緒に楽しみながらできるトレーニングを模索する。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		1	必要時、資料を読み、わからないところは管理者に聞くようにしている。
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			様子等を伺いながら、寄り添い聞くことを心掛けている。信頼関係を築き上げる。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8			事前アンケートを行い、希望に添えられるよう考えイベントと連動させて保護者会を行っている。イベントに外部講師などに依頼し、専門的な知識に触れることができる機会を提供している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8			気になっていることや思い当たる行動があった場合、その都度管理者に報告するようにしている。問題があった場合、職員間で精査し適切な行動へと導く。環境整備は安全面を考え整備し、周知も行う。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			
	35	個人情報に十分注意している	8			書庫等、鍵を使用している。持ち出し禁止。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			利用児童の頑張ってきたことやその日の行動や表情等から気持ちを読み解きながら活動状況を伝えるようにしている。保護者の様子も伺いながら、気軽に相談してもらえるよう家庭状況に応じて対応している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	2	

38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8		避難訓練の他、避難経路等を散歩コースに組み入れて歩くなどしている。 不審者等、危険が迫った場合の合言葉を設定児童に周知し、教室で練習している。	
----	---	---	--	--	--

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	8			職員にも周知済みで、やむを得ない時のみの対応で了承している。活動参加状況もその都度、報告している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			ボードに氏名とアレルギー物質を記載し、おやつ準備時に確認して分けるようにしている
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			ヒヤリハット発生時は対応に集中するようにし、落ち着いたところで簡単に記録しておき、後に報告書に詳細を記入している。対応法の共有、最善策の構築。いろいろなヒヤリハットを記録しておく。